北海商科大学　講義概要（シラバス）

2026年度

科目名	言語の科学A	科目コード	1134	単位数	2
担当者名	原子　智樹	開講セメスター	第1セメスター	開講年次	1年次
授業の方法	講義	到達目標	B	実務経験	無
ナンバリング	BLl103	※DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

授業のねらい

国際社会における言語や地理の違いに基づく多様な価値観や世界観の存在を理解するのに役立ちます．「言語の科学Ｂ」と合わせ通年使用するテキストT1に沿い，世界地図と言語地図とを重ねて見てみるなど，人間とは切り離せない言語の側から世界を学びます．また，音韻論・形態論・統語論・談話分析のそれぞれから，音声，形態素，語，句，文，そして談話という言語単位を例を示して概説します．

到達目標

英語・日本語を中心に言語の構造や人間と言語との関係の基本的理解ができるようになります．

授業内容

1週目 ①②「言語の科学Ａ」概要説明　　・世界地図［１］（北半球）
2週目 ①　言語の起源　②言語の系統［１］（言語系統表a）　・世界地図［２］（南半球）
3週目 ①②言語の系統［２］（言語系統表b）　・言語地図［１］（言語の境界a）
4週目 ①　言語の系統［３］（言語系統表c）②世界の言語［１］（各語族）　・言語地図［２］（言語の境界b）
5週目 ①　言語の系統［４］（言語系統表d）②世界の言語［２］（言語間の比較）　・言語地図［３］（言語の境界c）
／　テスト[i]（4週～5週のいずれかに開始）
6週目 ①②発音記号の役割［１］（言語の音声）
7週目 ①②発音記号の役割［２］（発音記号表）
8週目 ①②言語の構造［１］（音韻論）
／　テスト[ii]（7週～8週のいずれかに開始）
9週目 ①②言語の構造［２］（形態論）
10週目 ①②言語の構造［３］（統語論）
11週目 ①②発話の意味［１］（語用論a）
／　テスト[iii]（10週～11週のいずれかに開始）
12週目 ①②発話の意味［２］（語用論b）
13週目 ①②言語の習得［１］（言語習得の過程）
14週目 ①②言語の習得［２］（母語）
／　テスト[iv]（14週～15週のいずれかに開始）
15週目 ①②言語の習得［３］（外国語）
／　再試を行うことがあります
16週目 16 週目の開講は任意とします　／　再試を行うことがあります　／　これまでの内容についてのフィードバックを実施することがあります。但し止むやむを得ず15週目までの授業内容を実施出来なかった場合は、補講授業を行います

準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

進度に合わせテキストT1を予習．また各自で適宜に復習．併せて週30分～60分程度を要するでしょう．
必要に応じ、授業時間以外でも情報調査・収集を学内アクセスポイント等を活用して、積極的にアクティブ・ラーニングに取り組みましょう．

成績評価の方法・基準

1 小テスト及び小レポート数回　15%
2 テスト 4回　　85%
1も2もLMS上で実施予定
2は4回のうち、3回は時間制限付きの選択式問題であり、LMSの「小テスト」タブ内で「テスト」機能を使用します。この「テスト」は実施中にインターネット回線が瞬断しただけで途中終了となり、この障害での追再試は実施しませんので、極めて安定した回線で受験してください。

履修上の留意点

内容・予定の微調整は担当者の判断に委ねられます．
LMSと大学アカウントGmailとを主に使用する予定です．連絡事項はLMSの〈掲示板〉機能を多用します．また研究室扉横に掲示することもあります．LMSの巡回と，大学アカウントのGmail確認とは，毎日のようにしてください．授業の資料類はLMSに掲示するので学内アクセスポイント等を用いて各自アクセスし、予復習を行なってください．
全回出席が望ましいですが、欠席が3分の1を超えた場合は単位認定はできなくなります．出席が3分の2に満たない場合はやむを得ない特別な事情を証する書類のコピーとともに欠席届を提出してみてください．
講義・授業への遅刻はやむを得ない特別な事情がない限り禁止です．

課題に対するフィードバックの方法

各回の試験の内容や付随する事柄について、簡潔に伝えてフィードバックする予定です．

テキスト

T1 『入門 ことばの科学』 大修館書店　￥2,000＋税（「言語の科学Ｂ」も同じ）
T2 ［配付資料］、及び［その他 LMSのアップロード資料］

参考書

R1 『世界言語百科』
R2 『言語世界地図』
R3 『世界紛争地図』
R4 『英語再習法』（共同文化社）（「異文化と言語A」で使用．）
R1からR3は本学図書館開架所蔵
他に適宜紹介します．

更新日付

2026/02/25 03:48